

委員長コメント

(平成24(2012)年エイズ発生動向の概要について)

【平成24年 年間報告(確定値)】

【概要】

1. 今回の報告期間は平成24年1月1日から平成24年12月31日までの1年。
2. 新規HIV感染者報告数は1,002件であり、昨年より減少し、過去6位。
3. 新規AIDS患者報告数は447件であり、昨年より減少し、過去3位。
4. 合計は1,449件で、昨年より減少し、過去6位。(一日あたり約4.0件の新規報告)
※これまでの最高は、平成20年(確定値)新規HIV感染者報告数1,126件、新規AIDS患者報告数431件、合計1,557件

【感染経路・年齢等の動向】

1. 新規HIV感染者報告数：
 - 同性間性的接触によるものが724件(全HIV感染者報告数の約72%)
 - 異性間性的接触によるものが180件(全HIV感染者報告数の約18%)
 - 静注薬物によるものが5件(ほか、その他に計上されているものが11件)
 - 年齢別では、20~30代が多い。
2. 新規AIDS患者報告数：
 - 同性間性的接触によるものが238件(全AIDS患者報告数の約53%)
 - 異性間性的接触によるものが114件(全AIDS患者報告数の約26%)
 - 静注薬物によるものが3件(ほか、その他に計上されているものが6件)
 - 年齢別では、20代以上に幅広く分布し、30~40代に多い。

【報告地別の概況】

1. 新規HIV感染者報告数：
 - 東京、大阪、名古屋の三大都市を含む地域からの報告数が、多数(約83%)を占める。
 - 東京都ではやや増加がみられたが、他の地域では横ばいもしくはやや減少した。
2. 新規AIDS患者報告数：
 - 三大都市を含む地域からの報告数が、多数(約78%)を占める。
 - 近畿ブロック、東海ブロック、九州ブロックなどではやや減少したが、東京都、東京都以外の関東・甲信越ブロックなどではやや増加しており、全国的に減少傾向とは言えない。

【まとめ】

1. 新規HIV感染者報告数は、2008年以降、増加傾向から横ばいに転じている。新規AIDS患者報告数は、日本国籍男性を中心に増加傾向から横ばいとなりつつある。
2. 一方で、2012年においても、新規HIV感染者報告数は1,002件、新規AIDS患者報告数は447件と、年間1,500件程度の新規報告があり、また、新規AIDS患者報告数が約3割を占める状況が続いている。HIV感染症は適切な治療によりAIDSの発症を抑えることができることから、AIDSを発症する前にHIV感染を早期発見することが重要である。

(続く)

3. また、新規H I V感染者報告数及び新規A I D S患者報告数のうち多数を占めるのは、引き続き、日本国籍男性で、同性間性的接触を感染経路とするものである。
4. 以上より、各自治体においては、引き続き、エイズ予防指針を踏まえ、個別施策層（特にMSM）を中心に、利用者の利便性に配慮した検査・相談事業を強化するとともに、国民のH I V/エイズに対する関心を高め、受検行動に結びつけるよう、普及啓発に努めることが重要である。
5. 国民は、引き続きH I V/エイズについての理解を深めていただきたい。早期発見は個人においては早期治療、社会においては感染の拡大防止に結びつくので、感染予防に努めるとともに、H I V抗体検査・相談の機会を積極的に利用していただきたい。

注1) H I V感染者：感染症法の規定に基づく後天性免疫不全症候群発生届により無症候性キャリアあるいはその他として報告されたもの。

注2) A I D S患者：初回報告時にAIDS と診断されたもの。（既にHIV感染者として報告されている症例がAIDSを発症する等病状に変化を生じた場合は除く。）

注3) 個別施策層：感染の可能性が疫学的に懸念されながらも、感染に関する正しい知識の入手が困難であったり、偏見や差別が存在している社会的背景等から、適切な保健医療サービスを受けていないと考えられるために施策の実施において特別な配慮を必要とする人々

注4) MSM：男性間で性行為を行う者をいう。

なお、平成24（2012）年エイズ発生動向年報の詳細については、7月下旬に年報を公表予定である。